

開催地名	千葉県松戸市
開催日時	令和6年1月12日（金） 14:00 ～ 15:30
開催場所	松戸市民会館
語り部	犬飼 一博 （愛知県名古屋市）
参加者	防災リーダー、町会自治会、防災関係団体、市職員等 693名
開催経緯	松戸市では、首都直下地震を含む巨大地震発生の切迫性が懸念されており、防災意識の向上が喫緊の課題ではある。近年、線状降水帯に伴う豪雨災害が激甚化・頻発化し各地で甚大な被害が発生していることを踏まえ、市民の防災意識の向上を図ることを目的として啓発活動を行っている。しかしながら、災害に対する危機意識の低下は否めず、自助や共助の考え方や重要性などの普及啓発が課題となっている。そこで、本年度の防災講演会では、豪雨災害に精通された犬飼氏を講師にお招きし、「大雨から大切な命を守る！逃げ遅れゼロに向けた防災啓発」と題して、伝えることを意識した講演を実施していただくこととした。
内容	（１） 逃げ遅れゼロに向けた取り組みとその背景 近年、全国各地で甚大な水害により、逃げ遅れによる被害が多発している。中部地方では東海豪雨以来、広域的な大規模水害が発生していない。また、災害を経験していないことが避難の遅れに繋がっているというデータもある。その様な状況を踏まえ、VRによる浸水疑似体験や人気ゲームソフトを活用した啓発動画などトレンドを意識した啓発ツールを用い、防災に興味のない人を始め、大人から子供、障がいのある人まで、より多くの人に早期避難の重要性が伝わる防災啓発に取り組んでいる。特に重点を置いて取り組んでいるのが防災教育支援である。今後、社会資本整備に携わる土木系の学生を対象に防災講座を行い、過去の水害や備えを学び、避難インフルエンサーとして「守られる人から守る人へ」の意識の醸成に繋げることを目的に取組を始めた。その後、小・中・高・大学へと拡大し、講座を受講した人数は約5,500名（令和5年12月末現在）となった。また、インクルーシブ防災の取組として、特別支援学校での防災講座や視覚障害のある方に向けた防災啓発冊子の点字版や音声版の作成も行い、中部管内の聾学校や点字図書館に寄贈している。外国人に向けた防災講座も実施している。VRや映像による浸水疑似体験は、水害の恐さが伝わり、水害を自分事として捉えるきっかけになる。特に若年層には受け入れやすく有効である。 （２） 過去の水害とその教訓 昭和33年に起きた狩野川台風では、狩野川流域を中心に強雨域が長時間に渡ってほとんど動かず雨が降り続き、狩野川上流域では土石流も発生し甚大な被害が発生した。松戸市でも坂川流域で浸水被害が発生している。また、令和元年東日本台風は、狩野川台風と類似の進路を通過し、東日本を中心に各地で甚大な被害が発生した。当時、この台風は、狩野川台風と同様のコースを辿ると言われていたが、若い人たちは狩野川台風自体を知らないで、その重大さが伝わらなかったという話もある。ここでも、過去に地域で起きた災害を伝えていくことの大切さが解る。昭和34年の伊勢湾台風は高潮による

被害が大きく、全国で 5,000 人以上の命が失われた。海拔ゼロメートル地帯という濃尾平野の地形も被害を拡大させた、東京都の沿岸部などにも同様に海拔ゼロメートル地帯が広がっている。千葉県では、大正 6 年の高潮被害の記録が残っており、松戸市では洪水による浸水被害が発生している。近年でも類似の進路を辿る台風もあり、平成 30 年の台風 21 号では関西空港が浸水するなどの被害が発生した。たまたま自分たちの住む地域で災害が発生していないだけであり、自分たちの地域でも起きるかもしれないと自分事として捉えることが大切である。また、松戸市では内水による被害が度々発生している。松戸市は台地と低地が入り組んでおり、集中豪雨では雨水が急激に低地へ集中する。昭和 56 年 10 月 22 日の台風 24 号では甚大な被害となった。中部地方においても、昭和 51 年に長良川が決壊した「9.12 豪雨（安八豪雨）」や平成 12 年 9 月の「東海豪雨」では内水による大規模な被害が発生している。近年、全国各地で台風や線状降水帯による大雨が多発しており、何時、何処で水害が発生してもおかしくない状況である。地形や地質は変わらないため、水害が起きやすい場所は繰り返し水害が発生する恐れがあることから、過去の水害に学び、リスクを確認しておくことは重要である。また、これらの様に甚大な被害を及ぼす台風や大雨は予測が可能のため、事前に備えをして速やかに避難をすることで大切な命を守ることに繋がる。

（３）最後に

「自分の命は自分で守る」「大切な人の命を守る」ため、①事前に備えることとして、非常食や避難用品などの準備、ハザードマップで住んでいる地域の災害リスクを必ず確認すること②情報収集として、災害情報に敏感であること、そして普段から情報収集に慣れておくこと③万一に備えて避難場所や避難ルートを予め決めておき、早めに避難すること、が大切である。それと共に、周りの人たちに「逃げて」の声掛けができる避難インフルエンサーとして、“守られる人から守れる人”になって頂ければ、少しでも大切な人の命が守られると思う。本日、体験して頂いた浸水疑似体験 V R ・映像は「1minite1second（ワンミニット、ワンセカンド）」とタイトルを付けている。これは、1 分でも 1 秒でも早く避難して欲しいという思いを込めて付けたタイトルなので、今後、大雨の時期には今日のことを思い出し、大雨から大切な命を守ることに繋げて頂ければ幸いである。



開催地より

今後について、松戸市では、ご講演いただいた内容を踏まえ、豪雨災害等において、逃げ遅れゼロを目指した啓発活動を行い、市民の防災意識や避難に対する危機意識の向上を目指していく。